

●問い合わせ 中央公民館  
TEL 32-1132 FAX 37-1153  
●編集 公民館報編集委員会  
●印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行  
2022

9/30

まつもと

表紙の説明は6面

シリーズ デジタル化 《第4回》

公民館報のデジタル化のいざなり

公民館報は現在スマホでも閲覧できます。しかし今推進されているデジタル化はこれだけにとどまりません。では、今後何が求められるのでしょうか。「スマホ体験講習会」にそのヒントを探ってみました。

好評の講習会

松本市は昨年好評だった「スマホ体験講座」に続き、今年度は「スマホ体験講習会」を実施しています。

8月19日までに5会場で実施され、45人が参加しました。評価は上々で、アンケートの「講習会を」家族や友人に勧めたい程度は」という設問に、80%以上が10点満点の回答をしています。また参加者の95%が60代以上で、80代以上は20%強です。

カリキュラムは、基本的な使用方法のほか、二次元コード、地図、キャッシュレスなど、事前アンケートを参考に、その会場ごとに準備されます。



閲覧できる公民館報と二次元コード

また運営するのは業務委託された民間の事業者です。



スクリーンも活用して分かりやすく

講習会の実際

8月12日午前10時より、今年度4回目が鎌田地区公民館において開かれました。参加者は10人で、女性5人、男性5人です。70代以上は7人です。スマホを持っている人は6人で、その方たちの参加

の動機は「より使いこなしたいから」というものです。

内容は、音声入力や二次元コードの利用など、複雑な入力を回避することに重点が置かれていたことが印象的でした。講師スタッフは2人で、利用経験者でさえ改めて発見する事柄もあり、分かりやすい講習でした。

参加者の感想は、「次回も受けたい」「もっと勉強したい」「いろいろな用途に使ってみたい」など、これからの利用拡大を予感させるものがありました。



個別の相談にも対応

よりよいデジタル化

今後は館報にアクセスすることにかしらの有益性が要求されるでしょう。またスキルを持った専門家の援助も必要です。この講習会のように、推進者、参加者、協力者がマッチした姿が館報の編集にも求められることでしょう。

わがまち自慢(第二地区)

3年ぶりの舞台奉納―天神祭り―

松本の大きな伝統行事の一つ「深志神社天神祭り」が、7月24日・25日に行われました。コロナ禍で2年間は神事のみだった祭りは、急激な第7波拡大を受け、慎重に感染対策を行い実施されました。

舞台町会と協議のうえ、今年は漆塗りの豪華な舞台15台(市重要有形民俗文化財)がそろって奉納されると、境内は活気づき参拝客で賑わいました。

25日の夕刻には、町内に舞台がある本町5丁目の舞台はお囃子の音とともに街中をえい行しました。

深志神社の創建は古く、江戸時代にはお城と城下町の総鎮守として歴代城主からも敬われました。「天神祭り」は城主小笠原忠貞が南深志の町内に舞台を造らせたことから始まる(1615年)と伝えられます。町人の心意気を競いあつて制作してきた舞台は、信州一の商都松本の繁栄の象徴でもあります。



〈舞台の復活で賑わう境内 2022.7.25 撮影〉

城主水野忠直から寄進された二基の神輿(市重要文化財)も、信州松本松深会の担ぎ手により氏子町内巡りができました。

市街地の住民と子どもの減少は深刻で、舞台の曳手は町会ごと対策を行い、お囃子の子どもたちの教室は市全体から募るなどの課題があります。

松本深志舞台保存会の石塚会長は「皆が協力しあつてできるだけの努力をし、舞台の奉納ができた。大切な伝統文化は継承し、松本のまちにのこしていきたい」と意気込みを話しました。

# 館報 はた

スージーちゃん スイガウくん

令和4年9月1日現在

世帯数	6,332戸
人口	15,457人
男	7,506人
女	7,951人

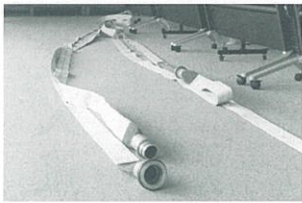
## 1区町会 子ども防災教室



「防災とはなに？」と聞かれ  
たら何と答えますか。

私がおしそう聞かれた場合  
になんと答えてよいのか、1  
区町内公民館長という立場も  
あり、令和3年度はよくわか  
らないまま子ども会の役員の方  
に「子ども防災教室をやっ  
てみませんか？」と提案して  
しまいました。

子ども夏祭りに便乗させて  
いただき、消火栓のホースを  
延ばしてみようという企画で  
話がまとまりました。当日は、  
コロナ禍ということで一堂に  
会せない事情もあり、子ども  
が来た順でホースを延ばして  
もらいました。子どもたちは

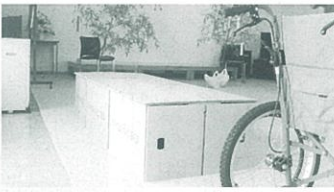


皆楽しそう  
にやっ  
るので、堅  
苦しいこと  
を実施する  
よりも、こ  
れでよかつ  
たのではな

いかと思いました。

ホースを延ばすと、必ず  
巻き戻す必要がありますが、  
四十数回巻くとなるとさすが  
にしんどく、次回はやめよう  
という事になりました。

そして、今年度も夏祭りに  
便乗して防災教室をやらせて  
もらえないか  
と提案したと  
ころ、OKが  
できました。防  
災の何をメイ  
ンに実施しよ  
うかと考え、  
一時期話題に  
なった「段  
ボールベッド」にふれてもら  
おうということになりました。



松本市の危機管理課よりお  
借りしてきたのですが、初め  
での組み立てに説明書を見な  
がら悪戦苦闘すること約40  
分。完成したものは、どう見  
てもただの段ボール箱にしか  
見えず、大丈夫かなと思いつ



つ、恐る恐  
る寝てみる  
と意外と頑  
丈で寝るこ  
とができた  
した。

そんな段  
ボールベッ  
ドも夏祭り会場では、魚釣り  
ゲームのイス代わりになって  
しまいました。時々、興味の  
ある子どもがベッドのふた  
を開けて覗き込む程度。それ  
とは対照的に人気があったの  
は、同じく防災備品として準  
備した車イス。車イスを押し  
たことがある子どもは多かつ  
たようですが、やはりこちら  
も興味津々で、試乗会のよう  
な雰囲気を楽しめたようで  
す。

そして、最後に記念品。保  
存食品はもちろんですが、簡  
易トイレセットも入ってお  
り、準備した我々役員もびっ  
くり！

このような防災教室ではあ  
りましたが、2年間やってみ  
たことで、いざという時のた  
めに備え、自分自身や家族を  
守ることが  
防災ではな  
いかと感じ  
た教室でし  
た。



## 15区 花・サツマイモの苗植え

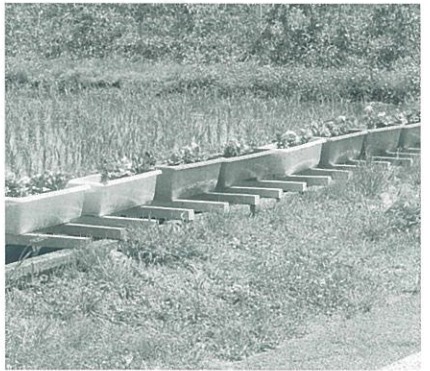


地域美化運動の一環で、6  
月4日(土)に、小学生14名  
未就学児8名と保護者の方々  
に参加していただき、15区遊  
園地の花壇とプランターに花  
の苗を植えました。

花の苗は、今年も15区の東  
京電力リニューアブルパワー  
(株)松本事務所様より、マリー  
ゴールド、ペゴニア、サルビア、  
日々草など、200ポットを  
提供いただきました。



プランターは、20個にもな  
り、通学路沿いの水路に並べ  
ました。花街道を思わせる見  
事な眺めとなりました。



花苗植えの後、15区公民館  
北側の畑へ移動し、子供農園  
作業体験としてサツマイモの  
苗を植えました。子ども達に  
とつても、土の感触を味わい  
ながら楽しい一日となりました。



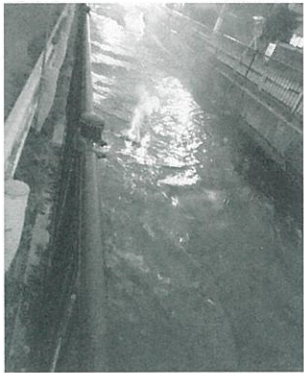
# 盆火流し



盆火とは4区のお盆行事で、稲わらを束ねて牛杵の形に縛った一種の松明を、夕方に和田堰に流すものです。8月13日の迎え火、8月16日の送り火があります。昨年は記事として取り上げましたが、新型コロナウイルスの感染者急増で、流した盆火の回収をお願いしている消防団の出動要請がでなかつたため、急遽中止となりました。今年も記事として取り上げることが決めた時点では、開催されるか不安でした。

当日は、新型コロナウイルスの感染警戒レベルが昨年より高く、医療非常事態宣言が出され、さらに台風も来ていて中止にならないか心配しました。

新型コロナウイルスの感染状況によって、各地の行事等が中止や延期となるなか、盆火に合わせて開催していた夏祭りは



今年も中止となりました。今年も令和2年度と同様に、盆火・三九郎保存会主体で規模を縮小しての開催となりました。幸い台風による雨もなく、午後7時に開始となりました。

和田堰にかかる橋の3本の間、およそ100メートルを盆火が流れていきます。

1番目の橋の上で盆火に火をつけて川に流し、3本目の橋で消防団の方が回収しました。開始からおよそ20分で終了となりました。

川に流れる盆火の撮影は初めてだったため、手振れでうまく撮影できませんでした。来年こそは、従来通りに子ども達の「盆火、やーい」の掛け声と共に盆火が流れて行くのを見られることを期待しています。

## 健康講座 健康フラダンス 体験会



7月25日と8月1日の計2回、波田公民館開催の健康講座に参加しました。何もわからない場所に踏み入った感じが最初は不安でした。

まずは、「衣装・姿から」ということで、パウスカートというフレアを意味するロングのスカートをはき、そして髪飾り（既婚者は左に、募集の方は右に）、

レイは首にかける物で、アームバンドは手首に付けます。すでに衣装を身に着けただけでもわくわく、楽しさが満ちあふれてくるようでした。



皆さんイキイキして8歳近い方もいらっしやいましたが、まだ踊る前なのにすでに心は健康になった気分。

フラダンスは、ハワイの伝統の踊り。ハワイから30年くらい前に日本に伝わった踊りです。最初に「月の夜は」という歌詞にそって体を動かし

ていきます。詩があると思わず、曲にのって体を動かすと思っていた私。最初に手の動き（ハンドモーション）のみを教わり、次に足の動き（ステップ）のみを教わる。そして同時に手足を動かすことを教わる。その一つ一つの所作は、詩の意味を表す。揃えた指の先から手首、肘、肩、首、それらを追う顔、視線の先。フレイル予防運動や、脳トレとは違う健康法だと感じました。

フラダンスは、「魅せる健康トレーニング」という感じ

で、やって楽しく、心身ともにほぐさせてくれるだけでなく、一緒に踊っている皆さんを見ていても楽しくなれる。

最初は躊躇したけど、フラダンスっていいね。世代を超えて楽しみ、忙しい日常の中で、この時間は彩になる。小さな一歩が大きな変化を生み、生き生きと楽しむことで心が豊かになる。

日々そうあればと思いう有意義な体験となりました。



## まげば

月見といえ ば中秋の名月・十五夜ですが、この日に限らず月を眺めていると心が和みます。

何気なく見上げた夜空。輝く月：そんなときふっと思いつく「月うさぎ」で浮かぶのが「月うさぎ」です。

子どもの頃「月うさぎが餅つきをしている」と教えられた方も多いのではないのでしょうか。「月」イコール「うさぎの餅つき」というのは、日本では当然の結びつきだと思えますが、世界共通ではないようです。

例えば、中国では「菓草を挽いているうさぎ」又は「カニ」に例えられ、欧米では「女性の横顔」に見え、インドネシアでは「編み物をしている女性」に見えるそうです。

地球から月までの距離は約38万4千4百キロメートル。肉眼で月の表面が見えるわけですから、すごいことですよね。秋の夜長にゆったりと月を眺めてみてはいかがでしょう。あなたはどんな形にみえましたか？

視点

⑧ 地域住民と学生がつながる  
芳川地区  
いきいきプロジェクト

若者と一緒に

芳川地区には、若者は地域との関わりが少ないという課題があります。若者の地域参画へのきっかけづくりに取り組みのために、芳川地区地域づくりセンターが中心となって、昨年7月に芳川いきいきプロジェクトを立ち上げました。中学生、高校生、大学生にとっては自分の自由なアイデアを、若者が中心となって実現させることができる良い機会となっています。

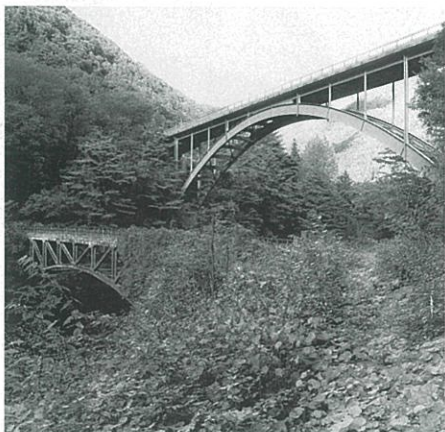
写真でつづる  
まつもと今昔⑤9

～時代の流れにあわせて～



(撮影:1962年)

1935年に河童橋まで乗合バスが延伸し、上高地が身近な観光地となります。先代の稲核橋は、地域の交通基盤としても大活躍しました。



(撮影:2019年6月)

稲核ダム建設に伴い、現在の橋に架け替えられました。手前には先代の橋も並んで見られます。

※1962年撮影と同じ地点から。



ZOOMを用いたハイブリットな会議

これまでに、青空市、地域住民が災害の時にも役立てられる家族紹介カードづくり、小学生向けの『eスポーツ』体験会が実施されました。2カ月に一回開かれる会議では、遠方の学生や、電車の中から参加した学生もいました。発言しやすい空気があり、積極的な意見交換がされました。

地域住民との関わり

た。現在、フォトコンテスト、青空市での企画が進められています。

活動から地域課題へ

学生たちは、このプロジェクトを通して、地域に問題意識を持ちました。

気軽に参加した活動から、地域の課題を考えるようになりました。このプロジェクトの効果は重要と言えます。未だの松本を支えていく若者たちには、地域の課題を知るために、参加しやすい活動の機会を作ることが必要です。



昨年の青空市の企画運営をした学生たち

おこひる

コロナ禍で山登りを自粛している。七十歳を過ぎても山に登りたい。それには体力を維持しなくては。退職後近くのジムに通

い始め、四年数ヶ月になる。感染対策をしているジムに通えるのはありがたい▼以前肩をケガし手術した影響で、右腕はまっすぐ上にあがらなかった。ジムのパーソナルトレーニングで、徐々に改善してきた。完全には元に戻らないが、かなりあがるようになって嬉しい▼また、左ひざを痛めてクリニックで治療し、回復した。ところが自肅前、最後の山登りの時である。上高地の明神岳ひょうたん池を日帰り往復した。帰りのガレ場で左ひざをかばい、今度は右ひざを痛めてしまった。その後治ったものの、トレーニングが足りない▼高齢者と単独行の登山者の遭難が多い。遭難は誰もが起こしたくないと思っているだろう。やはりしっかり体力をつけたい。小屋での乾杯を楽しみに、トレーニングに励む日々である。山登りの仲間が足腰丈夫なうちに、コロナも落ち着いてほしいものである。

歴史探訪

探ろう松本30

白板地区

市街地北西部にある白板地区は、人口5,999人、3,041世帯です。65歳以上の人口比率は、29・5%です。14町会の規模は、最多の蟻ヶ崎西町会712世帯から最少の駒町27世帯までさまざまです。

白板地区の歴史は

城山腰と呼ばれる城山のなだらかな斜面には、多くの遺構が見られます。

地区内には女鳥羽川や奈良井川が流れ、稲作が盛んであったことや交通の要所であったこともうかがえます。

住居跡は宮渚本村遺構の弥生時代竪穴住居Ⅱや蟻ヶ崎遺跡の奈良・平安時代の竪穴住居などが発掘されています。

遺物として開き松古墳の眉庇付冑や神社の畑から蝶形磐



加助の悲哀、貞享義民塚

(楽器) が出土しています。

白板地区、宮渚地籍の初見は応永7年(1400年・松本市史による)で、蟻ヶ崎の地名は天文21年(1552年)に小笠原長時の建仁寺への請願文にみられます。

不当な年貢取立てを直訴した貞享騒動の、多田加助の義民塚もあります。

公民館の変遷

北部公民館は昭和56年(1981年)の22館整備計画で誕生し、のちに城北・安原が独立して白板地区が誕生しました。公民館の建物は平成27年(2015年)4月に城山の高台から、北松本駅より福社ひろばから徒歩5分の位置に新築されました。

地域テキスト

平成26年12月、白板・波田・本郷の3地区が地域テキストのモデル地区となりました。



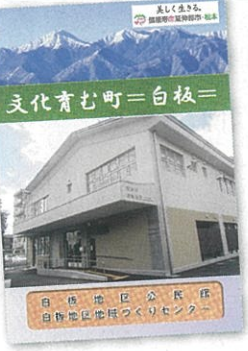
場所を移転した白板公民館

折も折、翌年の白板公民館新館開館に間に合わせようと編集委員会を組織し、8カ月足らずで白板地区の歴史や町会・公民館活動・各種団体・施設などを記載した地域テキストが完成しました。

約300部作成されたテキストは、地区内の小中学校などに配布され、活用されています。

今後の課題

住民の高齢化や、高台に住する住民の、買い物などの移動困難なケースが増えており、支援が必要です。



モデル事業・地域テキスト

**松本平の野鳥たち**

ヤマガラ (2021.10 アルプス公園 写真提供:信州野鳥の会)

スズメとほぼ同じ大きさ。カラ類の中では色彩豊かで、“腹部が山吹色のカラ”が名前の由来。全国に分布し、留鳥として繁殖。野鳥の中では余り人を恐れない鳥で観察しやすい。かつて、縁日で「おみくじ」を引いていた小鳥としても馴染みが深い。雑食性で昆虫やクモのほかに固い木の実(写真:エゴノキの実)が大好物。

**表紙について**

**今井ドンパン夏祭り**

コロナで中断していた今井ドンパン夏祭りが3年ぶりに開催されました。飲食の夜店・バンド演奏・盆踊りなどはありませんでしたが、夜店・太鼓演奏・打ち上げ花火が夜空を彩り、大勢の住民が楽しみました。

(撮影 2022.8.14 今井小学校校庭)